

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300092
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム 千葉黒砂台
所在地	千葉県千葉市稲毛区黒砂台2-2-1
自己評価作成日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://mcs-ainoie.com/gh228.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の日々の生活の安心・安全。また利用者様1人1人が生きがいが、楽しみを持って過ごしていけるように支援しています。職員には、利用者様とたくさん接するように指導し、利用者様の体調の変化を確認しています。また職員と顔を合わせる事により利用者様に安心して頂けるような声掛け等を行っております。医療との連携では担当医、看護師、職員が情報共有を行えるシステムを使用してます。ご家族様への近況報告といたしましても毎月お手紙を写真付きで送付しそれ以外でも電話等で近況報告を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の介護理念である①「快適」で「穏やか」な生活を常に支援します②さまざまな機会を通じて地域の人々との「触れ合い」を大切にします③「心」を込めた親切的サービスに努めその「姿勢」を磨き続けます。を各ユニット会議時に唱和し、職員は心を込めた介護を励行している。ホーム長のモットーは、その人のもとの生活を把握して、利用者に対して耳を傾けたケアを目指すことで、利用者にどちらかを選ばせるのではなく、何を作りたいとか、何を食べたいなど主体性を持ってもらうように心掛けている。また、職員には、決めつけた話し方や決めつけた介護の仕方をしない様に注意を払っている。コロナ禍であまり外出が出来ないので、紙コップに種をまきベランダにおいて水をあげることで、外気浴を少しでも多くするように心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念とクレドをユニット会議や全体会議の時に唱和し共有を図っている。ホーム長は「入居者様への明るく活気のある言葉かけを大切にしその人らしい生き活きた生活、家族に安心して頂けるケア」を目指し、職員に認知症への理解や記録の書き方等の研修を実施し職員1人1人に考えさせケアの統一化を目指している。	コロナ禍で各フロアーの職員の交わりが少なくなり法人の介護理念とクレドの唱和は、各ユニット会議等で行っている。ホーム長は、その人のもとでの生活を把握して、利用者に対して耳を傾けたケアを目指すことをモットーとし、職員に対して認知症への理解を考えさせ、ケアの統一化を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の委員会や防災会議には積極的に参加し意見交換、助言等頂いております。	コロナ禍で、自治会の会議も数回出席し、途中から中止となっている。会議の時は、ホームの状況やコロナに罹ったかどうか等を話し合っていた。ボランティアの方々も毎月来ていたが、断っておりコロナが落ち着いたら再開する予定でいる。散歩もあまり人に合わない様に、人の少ない時間帯を見計らって行っているため、地域の方々との交流は殆ど無くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア実践報告や事例報告会を通じて認知症に関わる支援を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1度の開催だが現在はコロナウイルスの関係で職員のみで開催し議事録は関係者へ送付していません。	運営推進会議は、開催直前でコロナ禍により中止となり、職員だけで開催し、入居者の状況や職員の入れ替え、行事等について話し合いを行い、議事録を家族や民生委員に送付している。行政は、内部で行っていれば監査の時も問題はないとの事であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは届け出書類等の件で相談助言を頂き、また市主催の研修や案内も頂いているので参加させて頂いています。地域包括支援センターとは入居者状況や空室の件をメールやFAXで連絡を取り合っている。	市役所へは変更届等を持参した時に相談事を行ったり、分からないことがあった時は電話で質問をしたり、苦情等について相談をしている。また、市役所からメールやFAXが来て、書類を持ってマスクや手袋を取りに行ったりしている。空室状況の相談等は、あんしんケアセンターと電話等で行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待と身体拘束ゼロに向けての研修を行っている。また法人の「虐待・不適切なケアチェックシート」を3か月に1回、職員が輪番で各ユニットの状況を見て行い、本部に提出している。職員の意識と理解を高めるようにしている。	身体拘束等に関する研修は、法人のサイトから抽出して行い、新入職員は年4回は必ず受講するようにしている。外国人の職員も2人居るが、内容は一般職員と同じで最低2回は参加してもらい、より一層かみ砕いた研修を行っている。プライドを傷つけない話し方やオープンクエッション(決めつけた話し方をしない)等を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・不適切なケアチェックシートの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センターとの話し合いで、ご家族様、ご利用者様の想いの実現について話し合っている。又成年後見者制度の活用も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ホーム保管用とご家族様用を作成し、説明・同意・署名・捺印を頂いている。又、ご質問にもお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご家族様アンケートを実施し意見や要望を匿名で報告出来るように行っております。また何か不明な点がある際には随時ご連絡を頂いております。	コロナ禍で家族の面会を自粛してもらっているため、電話で部屋の換気や冷蔵庫内の賞味期限切れに注意して欲しいなどの意見が有ったりする。また、居室担当者宛に、日々の暮らしの状況や洋服は足りているか、ボタン付きの服ではないものにして欲しい等の意見・要望もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を通して、愚痴も含めて職員が話しやすい雰囲気を作るとともに、日々に一緒にケアする中での会話からも職員の意見や要望を聞き取れるようにしている。行事担当などは職員の希望を取り入れて得意分野を発揮できるようにしている。法人の職員アンケートもある。	職員の意見・提案を聞く機会には、全体会議、ユニット会議、個別面談、法人アンケート、及び日常の中での会話等がある。意見・提案としては、壁に自分たちで考えて日々の行事等の写真等を飾っても良いか、或いは折り紙やのれんを外す利用者がいるがどうしたら良いか等の意見が出てくる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と定期的な面談、又、日頃から話し合いを行い、悩みを聴く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外を問わず、本人に合って研修を実施したり紹介し行ってもらうように進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流活動や、グループホーム協議会に参加し、情報共有を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会議を通して職員にアセスメント、ケアプランに目を通して頂き、現状を把握し各階のユニット会議にて入居者様の関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の要望をお聞きし、その後も随時、連絡を取り合い状況報告やケアの方向性を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1対1での会話をし、話をよく聴き、必要な支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のご要望を取り入れた中に、ご入居者様の残存機能を把握した上で、日常生活や共同生活の場において、他入居者様同士の懸け橋となるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族、施設、地域が一緒になり絆を保てるように悩みを共に考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会も自由に行っております。また、昔の住居や知っている場所への来訪も時間を作り行っております。中には毎週日曜にホーム近隣の教会へ職員同伴の元礼拝に行かれる方もいます。	昨年3月からコロナ禍で面会は自粛してもらっているため、家族とは電話のやり取り位である。毎週日曜日に協会へ礼拝に行っていた利用者も、コロナや3密を理解し行っていない。散歩のついでに近くの神社へ初詣に行ったり、ホーム長がネイルをしてあげて、昔を思い出してもらったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する事の無いように職員がレクリエーションや会話の懸け橋となり共同生活での空間を共有し合えるような支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、お家族の許可が下りている方には、別施設の訪問し面会を行い、ご様子をお伺いさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご参加できる入居者様はアセスメント(サービス担当者会議)に参加して頂きご本人様の意見も聞きどのように生活をしていきたいのかをくみ取っていく。	サービス担当者会議に出席できる利用者には出してもらっており、自分の意見を述べてもらい要望を聞くようにしている。最近の例では、自分の居室に他の利用者に入られるのが嫌なので鍵をかけて欲しいという要望があり、対応するようにした。会議に参加できない方は意見が伝えられないことが多く、ケアマネージャー、居室担当者が利用者に対して欲しいかを必ず尋ね、ケアプランに反映させるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様に今までの生活歴やご様子をお聞きし一人ひとりの居場所やその人らしさを追求している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人に合わせた生活リズムを把握して、その日の感情や身体能力、又本人希望に合わせた過ごし方の提案をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や事前チェック項目を通じて過去・現在・未来のサービス状況をケアプランに反映させています。	ユニット会議で、利用者にとって何が望ましいのかを話し合い、外気浴を多くしてあげた方が良いという意見が出た利用者には、花壇に水をあげてもらうようにして外のベランダに出るようなきっかけ作りを考える。事前チェック項目には、利用者ごとの過去の記録が記載されており、利用者その人の在り方はどうなのかと担当者会議等で活発に話し合わせ、例えばネールの好きな人にはホーム長が自らしてあげることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、勤務交替時のタレにて入居者様の状況や、報告、ケア内容にて情報共有している。出勤者は勤務交替に関わらず情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方、一人一人に合わせて長時間の散歩や美容など個々のニーズに合わせて支援サービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物を近くのスーパーに行き、今までの暮らしを継続しつつ地域との共存に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者様が月に2回の往診を受け、これまでのかかりつけ医への受診には家族が対応し継続している。往診前に発熱や排便状況などの往診医への申し送り事項を職員が往診表に記入し確実な受診に繋げている。往診時には職員が同席し、医師からの指示事項を往診表に記載して職員間の情報共有を図っている。また訪問看護師が毎週入居者様の健康状況を把握している。何かあれば往診医へのネットにて情報共有をすぐに行っている。	入居前からのかかりつけ医に掛かっている人は、現在1名いるがコロナの影響で家族が薬だけをもらいに行き、薬を届けに来た時に状況を聞くことにしている。残りの17名は提携医による月2回の往診を受けている。メディカルケアステーションを使って、提携医とのネットワークが構築されており、何かあれば直ぐに連絡して対応してもらえるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異変に関しては些細なことでも情報共有を行っており、早期発見や再発防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1週間に一回以上の面会を行い、現状の把握や病院から情報を共有して頂き早期退院、その後の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の重度化にかかる関わる指針や看取り指針を丁寧に説明し、本人、家族の同意を得ている。家族からの看取りの意向があった際は主治医と家族で話し合いを行い、訪問看護師と連携して家族の意向に沿った看取り支援を行っている。看取り経験のある職員が看取り未経験の職員への助言を行い、看取りに対するストレスや不安を少なくするなどの体制が確立している。	入居時に重度化に関わる指針を説明しているが、実際はその時にならないと分からないという話が多く、無理に入居時での契約は勧めていない。重度化してくると、食事の量や日々の体調が徐々に落ちてくるため医師と相談しながら家族と連絡を取り、今後どうしていくかの対応を取る形になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニット毎に緊急対応マニュアルを設置し、常に高い意思を保つようにしている。又、定期的に緊急時の滞欧を研修として取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。消火、誘導、避難誘導などの役割分担による訓練で職員の意識の向上を図っている。また地域防災会議への参加も行っている。	今年度も2回の避難訓練が実施された。地域防災会議に参加しており、今年度は地震発生時の避難場所である近くの公園に地域の住民、民生委員と一緒にホームからも参加し、テントの設営等を行った。安心ケアセンターとの防災に関する地域支援体制の構築の活動はコロナにより現在、中止となっている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が何をしたいか、何を食べたいのかなどの日常的な希望を聞くことを心がけている。また姓や名前での声掛けは家族と相談して個別に対応し、明るい雰囲気での関係づくりを目指している。入居者にはオープンクエスチョンでの声掛けを行い、自分で選択し意思決定できるように配慮している。居室への入室時には必ず声掛けをすることを朝礼時やユニット会議、全体会議で常に周知徹底を図っている。	相手に主体性を持ってもらうことが、本人への尊重に繋がるという考えで、オープンクエスチョンで接することを心掛けています。例えば、昼食時に「今日のメニューで何がおいしかった？」というような聞き方をしている。また、本人の尊厳を守るうえでも、決めつけた話し方、決めつけた介護の仕方はしないことをモットーとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を表せるように職員は決め事のように話をもちかけない。意向を表表せるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴を含め、その人らしいを実現できるように入浴や日々の過ごし方に添えるよう支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選べる方はご本人で決めて頂く。又、季節などに合わせて職員からも提案と言う形でおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁や盛り付け、食器洗い、各自の湯飲みにお茶を入れるなど入居者の力に応じて手伝っていただけるよう声掛けを行う。また入居者様の好む嗜好品の提供も行っており。	一日の食事メニューをホワイトボードに書き込んでおり、利用者によっては、それを見て夕食を既に楽しみにしている人もいます。例えば、ギョウザのメニューが出ていると、私これ好きなんだよねと会話が弾んでいる。ホームでは、口腔体操をしてから食事をとることが定着化しており、体操が終わると「さあ、食事だ。おいしいご飯が食べられる」といった環境が、食事を楽しむということにも繋がっているようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量が一日を通して量が一目で分かるようにしている。又、食事形態や水分形態も、その方の現状に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っていただいている。ご利用者によっては訪問歯科が口腔チェック、清掃実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	わずかでも尿意のある入居者様にはトイレでの排泄へのこだわり支援に努めている。尿失禁の回数が増えてきた入居者様には自尊心を傷付けないようパッドを使用できるような支援を行っていき、また排尿の間隔を職員が把握しトイレへの声掛けを行いトイレでの排泄が出来るように支援している。	トイレで排泄できるのは、人間にとって当たり前のことであり人間らしい当たり前のことができるような支援に努めている。ズボンの中に手を入れる人がいて、あゝこれはおしっこだと判断しトイレ誘導をするといった、生活のリズムの中でトイレの習慣を取り込むようにしている。利用者の自然の流れの中で、トイレ誘導ができるよう事前の準備を怠らないよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせて散歩や体操を行っている。又、下剤に関しても一人ひとりに合わせたタイミングや量を設定している。又、医療とも連携を取り内服薬にて調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも週2回の入浴を行っていただく。なるべく入居者様の希望に沿った時間帯での入浴が出来るよう支援し鄭重に。またこれまでの入浴習慣に合わせて1人でゆっくり時間をかけて入浴を楽しんでいる入居者様もみられる。入浴に疲労を感じる入居者様には湯船の湯を半分にして負担を少なくしたり入浴剤により身体を温めるなどの健康管理にも配慮している。	利用者の希望に沿った時間帯での入浴ができるように、3日に一度の入浴の中で午前、午後、夕方の中で入浴時間を調整している。自立ができていない人は、入浴介助なしでゆっくりと入ってもらい、職員は時々入浴の確認をするに留めている。人によっては、いきなりお風呂に入ると血圧が上がるため、湯船の湯量を半分にしてゆっくりと温まってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅で使用していた布団を持ってきていただいたり、冷暖房の調節を含め、快適に休息できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を各フロアに設置し常に意識し確認できるようにしている。又、薬剤師に相談できるような環境づくりに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の要望や身体機能に合わせ、身体能力に難しいと判断した場合でも、楽しめる様なレクリエーションの提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換とリハビリの一環として天気の良い日は毎日近くの公園や事業所周辺を散歩し、途中で近隣住民とも挨拶の交流を行っている	コロナ禍ではあるが、平日の人の流れの少ない時間帯に蜜を避けながら近くの公園やホーム周辺の散歩はしている。車で外出支援は中止しており、代わりにホーム長がパンを大量に買ってきてホーム内でベーカリーを設け利用者に好きなパンを選んでもらったりして、外出のできないことへの気分転換を図っている。体力低下の予防として、散歩、廊下を歩く、スクワット等を行いながら健康維持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の買い物にて支払いが可能な方は、買い物の際には金銭の支払いをご本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話対応が出来る時間帯ウィ把握して、ご本人には自由に電話や手紙のやり取りを行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の管理。また季節の花を飾り心身ともに安らいでいただく様支援しています。毎月壁の装飾品を変え季節感を味わっていただけるようにしております。	コロナ対策として、温度、湿度、換気に気を配り、昨年3月からは窓を開けっぱなしにしている。温度管理としては、25～26℃で過ごしてもらうよう心掛けている。リビングで快適に過ごしてもらう工夫の一つに、その時々季節に合った花を利用者と一緒に長さを合わせ、室内に飾って季節を感じ取ってもらうようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に席の場所を決めている訳ではありませんが、ご利用者自身で居場所を決めている。又、レクリエーションの際は、席にかけて居なく、職員より全体での居場所などを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたテーブルや椅子が家族の協力で居室に持ち込まれ、安心して生活が継続できるように支援している。数名の利用者様は居室入り口に名前や写真を掲示し安心して頂けるよう支援しています。	居室内のレイアウトは家族の方に入居前の利用者の部屋のイメージから決めて頂き、職員はそれを手伝うという形にしている。居室が自分の部屋だとわかるように、入り口に名前を書いたものを貼ったり写真を貼る人もいる。中には、生年月日も入れ自分のプロフィールとして入口に貼り、時には自分のことを思い出すようにしている利用もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員がフロア環境を常に意識し歩行の妨げにならない様な物品配置に努めている。		